

修禪寺物語

——明治座五月興行——

岡本綺堂

青空文庫

この脚本は『文芸倶楽部』の一月号に掲載せられたもので、相変らず甘いお芝居。頼家が伊豆の修禅寺で討れたという事実は、誰も知っていることですが、この脚本に現われたる事実は全部嘘です。第一に、主人公の夜叉王やしやおうという人物からして作者が勝手に作り設けたのです。

一 昨々さきおとし年の九月、修禅寺の温泉に一週間ばかり遊んでいる間に、あるひ一日修禅寺に参詣さんけいして、宝物を見せてもらつたところが、その中に頼家の仮面めんというものがある。頗る大いすこぶおおきいもので、恐く舞楽おそらの面おもてかとも思われる。頼家の仮面めんというのは、頼家所蔵おもての面おもてか、それには判然はつきり解はつきり意味か、あるいは頼家その人に肖にせたる仮面めんか、それは判然はつきり解はつきり

らぬが、多分前者であろうと察せられる。私が滞在していた新井の主人の話に拠ると、鎌倉では頼家を毒殺せんと企て、窃に怪しい薬を侷めた結果、頼家の顔はさながら癩病患者のように爛れた。その顔を仮面に作らせて、頼家はかくの通りでござると、鎌倉へ注進させたものだという説があるそうですけれども、これは信じられません。

とにかく、その仮面を覽て、寺を出ると、秋の日はもう暮近い。私は虎溪橋の袂に立つて、桂川の水を眺めていました。岸には芒が一面に伸びている。私は例の仮面の由来に就て種々考えてみました。前にもいう通り、頼家所蔵の舞楽の面というの他には、取止めた鑑定も付きません。

頼家は悲劇の俳優やくしやです。悲劇と仮面めん……私は希臘ギリシヤの悲劇の神などを聯想しながら、ただ茫然ぼんやりと歩いて行くと、やがて塔の峰ふもとの麓ふもとに出る。畑の間には疎まばらに人家がある。頼家の仮面めんを彫った人は、この辺に住んでいたのではなからうかなどと考えてもみる。その中うちに日が暮れる、秋風が寒くなる。振返つて見ると、修禪寺の山門は真暗まつくらである。私は何とも知れぬ悲哀を感じて、悄然しよんぼりと立っていました。その時にふと思いついたのが、この『修禪寺物語』です。

全体、かの仮面めんは、名作か凡作か、素人しろうとの我々にはちつとも判りませんが、何でも名人の彫った名作でなければならぬ。その面おもて作師つくりしというのは、どんな人であつたらう。そんな事を考え

ている中に、白髪しらがの老人が職人しよくにんづくし 人 尽なりにあるような装なりをして、一心に仮面めんを彫うっている姿が眼まなこに泛うかぶ。頼家の姿が浮うぶ。修禪寺の僧が泛うぶ……というような順序で、漸だんだん々に筋いとを纏まとめて行くう中に、二人の娘や婿が自然に現あらわれる事になったのです。しかし作の上では、面作師の夜叉王と姉娘の桂とが、最も主要の人物として働いて、頼家は二の次になってしまいました。

そんな訳わけですから、全部架空の事実で、頼家の仮面……ただそれだけが捉つかえ所で、他ほかには何の根拠もないのです。この仮面一個が中心となつて、芸術本位の親父おやじや、虚栄心に富んだ近代式の娘などが作り出される事になったので……狂言の種を明せばそれだけです。頼家の最期は故わざと蔭かげにしました。

仮面めの事は私もよく知りませんが、藤原時代から鎌倉時代にかけて、十人の名人があつて、世にこれを十作じっさくと唱えます。夜叉といふのはその一人いちにんで、実は越前大野郡えちぜんおおのごおりの住人ですが、夜叉といふ名が面白いのでちよつとここへ借用しました。この夜叉王は徹頭徹尾てつとうてつび芸術本位の人で、頼家が亡びても驚かず、娘が死んでも悲かなまず、悠然として娘の断末魔だんまつまの顔を写生するというのが仕所しどころで、最初はじめから左団次を狙つて書いたのですから多分巧く演やつてくれるだろうと思ひます。

姉娘すひとを演する優ひとのないには困りました。源之助で不可いけず、門之助で不可いけず、何分にも適當ひとの優ひとが見当らないので、結局寿美蔵すみぞうに廻りましたが、本来は宗之助か秀調しゅうちようといふ所でしょう。寿美蔵とんは飛

だ加役を引受けて気の毒です。

(五月五日)

青空文庫情報

底本：「岡本綺堂随筆集」岩波文庫、岩波書店

2007（平成19）年10月16日第1刷発行

2008（平成20）年5月23日第4刷発行

底本の親本：「美芸画報」

1911（明治44）年6月号

初出：「美芸画報」

1911（明治44）年6月号

入力：川山隆

校正：noriko saito

2008年11月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

修禅寺物語

——明治座五月興行——

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 岡本綺堂

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>